

「対比」関係をつかんで本文を整理してみよう II

例題 B 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

① 現代は心の病気がはやる。もしかしたら、一つの原因が社会の急速な情報化にあるのではないかと、私はひそかに考えている。

② そういえば、近ごろ「心ない人」とか、「心あるはからい」といった言葉をあまり耳にしなくなった。どうやら「温かいハート」といった昔ながらの心のイメージは、だんだん失われつつあるようだ。

③ では「温かいハート」でなく何になったのかといえば、心は「思考する頭脳」に近づいてきたのではないだろうか。現代人はまるで自分が情報処理機械であるかのように、せっせと情報を処理している。やりすぎると、ついに頭のはたらきがオカシクなることもあるのだから……。

④ ヒトの心が情報処理機械なら、「機械の心」を作ろうとする野望をいだく連中があらわれてもいっこうに不思議はない。コンピュータ技術は日進月歩、いつかかならず心をもつロボット「鉄腕アトム」が出現するにちがいない、というわけだ。夢はおおいに結構。しかし現実にはそれは問屋がおろさない。言葉をしやべろロボットの開発をめざした人工知能の研究が無惨に頓挫したのは、数年前のことなのだ。

【出典】
西垣通
機械の心
動物の心

4 例題 B A, B

4. 理由、
⑤ ああ、いったいなぜ「機械の心」は完成しないのか——理由を究めようと瞑想にふけっていると、突然ワン君に吠えられた。ギョッとして、その顔をみながら考える、「犬に、いや動物に心はあるのだろうか」と。愛らしいワン君の顔を前にすれば、「お前に心はない」なんてとても言えそうにない。「機械の心」は無理でも、「動物の心」は間違いなく存在するのではないだろうか。しかし動物学の書物をひもとけば、動物に心や意識があると簡単に仮定してはいけなことがわかる。

⑥ もっとも、最近は動物の意識についての研究も本格的におこなわれている。ヒトとともに進化してきた以上、ほかの動物も、たとえヒトとは違っていても何らかの心めいたものを持っている可能性は否定できない。そして実際、驚くべきことに、訓練された類人猿やオウムの中には、簡単な言葉をあやつってヒトとコミュニケーションできるものもいると報告されているのである。

⑦ 肝心なことは「動物の心」と「機械の心」との大きな違いだ。動物の心は、いわば「温かいハート」に近い。難しい計算も推論もできないし、コンピュータのような情報処理機械からはほど遠い。だが感情めいたものはある。そこで私はワン君に話しかけ、「心を通わせよう」とする。こちらが落ち込んでいるときのワン君の心配そうな顔……。

⑦ ↔ ②

⑦ — ③

[illegible]

ものだから

5

⑩ 「自分の心が機械だと信じている動物の心」、それが現代人の心なのだ。そうして、私はここに、現代の情報化社会の病理を読み解く一つの手がかりがあると思うのである。

3

⑨ ヒトというのは実に不思議な動物だ。論理的な文法を作りだし、ついには「機械の心」をさえ作ろうとするにいたった。もしかしたら、自分や社会を、機械の心のように論理的に管理・統御したいのかもしれない。まさにこれは一種の呪縛。

A

⑧ ワン君が高度な文法にもとづく文章を理解できないのは当然だ。△「お手」とか「こっちにおいで」といった、簡単な言葉の「意味」は瞬時につかむ。生物同士のコミュニケーションとは、論理的・機械的な記号操作よりもつと深くて根源的なものだ。

③ ヒトの言語行動も、つまりはその延長上にある——というわけで、動物から考えていくと、心の謎が少しずつ解けてくるのである。コンピュータは文法規則は覚えるが、言葉の意味はつかめない。そこに「機械の心」の限界がある。

4

⑧ △「お手」

35

45

40

問四 傍線部3「お前に心はない」なんてとても言えそうにない」のは、筆者には実際に犬がどのようにみえるからか。本文中の言葉を用いて四十文字以内で説明せよ。

[illegible]

問五 波線部の「心の病気」の原因を、筆者はどのようにとらえているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

情報化社会のもと、人々が情報処理に徹しようとした結果、逆に動物と同じレベルの頭脳しか持たなくなってしまったから。

口 人々が、情報処理機械としての「機械の心」を作る野望を抱いたものの、それが挫折に終わり、どうしていいかわからなくなったから。

ハ 情報化社会の進展によって、温かく心を通わせることが難しくなり、人々が癒しがたい孤独を感じるようになったから。

二 社会の情報化で、人々が自分の心を情報処理機械のように思いこんで、心を温かく通わせる気持ちを見失いつつあるから。

ホ 人々が、ようやく自分の心を機械だと信じるようになってきたものの、「温かいハート」からの脱却がまだ不十分だから。

例題 C

「具体例」とその「まとめ」との関係に注意してみよう

例題 C 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

① 人間のあり方を考えるのに、人類学がチョゾウして来た様々の文化の、これまではどちらかと言えばXと考えられて来た事例の方が新しく立ち現れる現実を説明するのに時にはより有効であると考えられるようになって来た。

② たえば、次のようなニュー・ギニアについての記述は十数年前までは、馬鹿々々しい、痴れ者の戯れと考えられたかも知れない。しかし、今日これを読む人に、何やら、自分が秘かに言いたいと思っていることを代弁されていると思う人は決して少なくないであろう。

③ パプアニューギニア共和国の、アサロ河流域のグルンバ族の住民は、時々、発作的な行為に走ることがある。ある暑いけだるい日のひるさがり、村の中を一人の男が突然逆上して走り出す。彼は目につくものを片っぱしからよこせと要求する。こうした時に、回りの人々は彼には全然逆らわない。壺つばでも石の切れ端でもナイフでも、何でも彼に渡す。野ブタ1の如く変身した男は、木製の矢じり、こんがらがった糸、煙草、石鱚せっけん、衣類、ナイフ、網、皿といったザツタな物で大きな袋が一杯になると、それを担いで森の中に姿を消す。

一、的外役に立たない

〔出典〕

山口昌男

文化人類学の視角

具体

X

5